

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

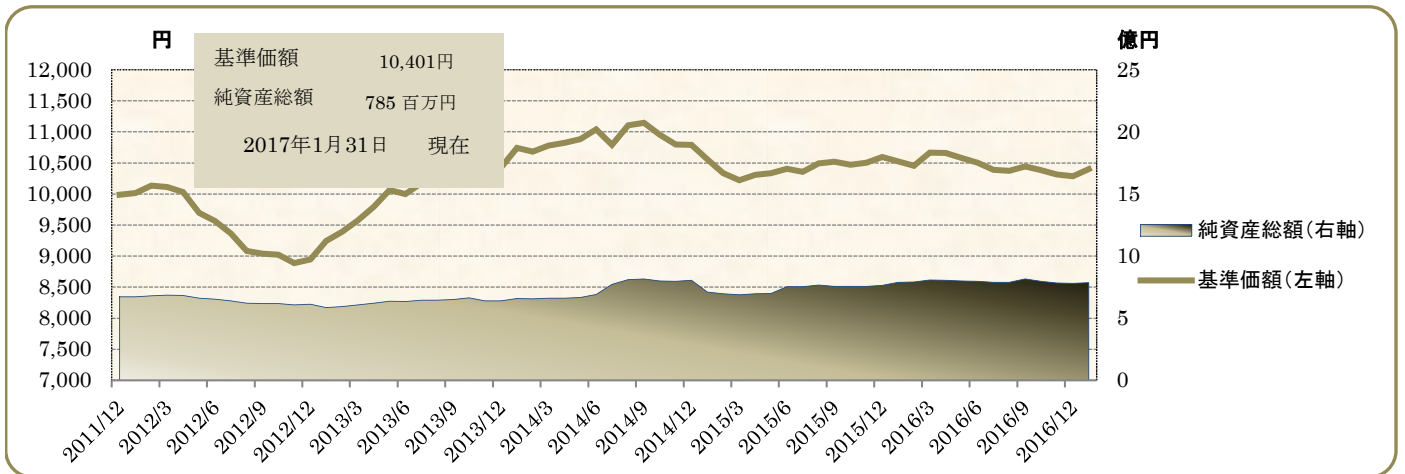
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2017年1月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

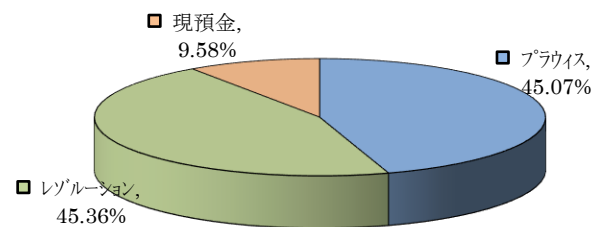
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%												1.12%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2017年1月31日	
基準価額:	10,401円	対前月比 115円
純資産総額:	785百万円	対前月比 +4.7百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	0.15%	
基準価額騰落率	3ヶ月	0.15%
	6ヶ月	0.12%
設定来	ファンド	4.01%
	TOPIX	110.30%
	日経平均	126.64%

投資対象ファンドへの資産配分 (2017年1月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	0.49%												0.49%
レゾリューション	2.64%												2.64%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

1月の株式相場は、日経平均で0.38%下落の19,041.34円、TOPIXで0.2%上昇の1,521.67ptとなりました。大発会は4年ぶりの上昇となりましたが、円高・ドル安を背景に下落基調となりました。トランプ次期米大統領の経済対策が具体化しなかったことや、保護主義的な発言を受け、外需株や医薬品株などを中心に幅広い銘柄に売りが広がりました。

上旬は、米中の好調な経済指標を受け、大発会は4年ぶりの上昇となりました。その後も、円安が進み、主力株を中心にほぼ全面高の展開となりました。

中旬は、英国がEU強硬離脱に向かうとの観測や、トランプ次期米大統領の保護主義的な発言、ドルは強すぎると語ったとの報道を受け、先行き不透明感から下落しました。

下旬は、トランプ米大統領が就任演説で、経済成長へ向けた具体策に言及せず保護主義的な主張をしたため、世界景気への悪影響を警戒し売りが広がりました。米政権の政策への警戒感から円高・ドル安が進み下落しました。

需給面では、海外投資家が4ヵ月連続で買い越しとなりました。一方、国内の投資主体は、信託銀行が2ヵ月ぶりの売り越し、個人投資家は7ヵ月連続の売り越し、投資信託は4ヵ月連続の売り越し、事業

法人は10ヵ月連続の買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、海運、石油・石炭、空運、鉄鋼、パルプ・紙が上位となり、電力・ガス、鉱業、不動産、その他金融、輸送用機器が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.3兆円と、2016年12月より減少したものの、活況の目安となる2兆円を3ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが4.1%の上昇、東証マザーズ指数は5.4%の上昇となり、いずれもTOPIXをアウトパフォームしました。

ファクター面では、中旬以降の株価指数や、原油価格の持ち直しを背景として、株価モメンタムやリスク関連のファクターが相対的に大きく動き、素材セクターを中心にベータが高いモメンタム株が上昇しました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【プラウイス】

〈ファンド運用状況〉

1月の運用成績はJPYクラスで+0.49%となりました。ショートポジションの比率が高かった石油株やFA関連株が相対的に堅調な動きとなったことから1月中旬までは軟調な運用成績となりました。しかし月末にかけて、業績修正や決算発表を受けて株価の割高・割安が解消されたこともあり、パフォーマンスは改善いたしました。

セクター別の損益では、電気ガス、REIT、食品、情報通信セクターでプラスとなり、石油、電機、医薬品セクターでマイナスとなりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

2月の株式市場はボックス圏での動きを想定します。米国大統領の政策に対する不透明感から当面は上値の重い相場展開が続くと考えられます。しかし、企業業績の改善が続いていることで投資家の押し目買い意欲も強いと考えられ、株価は底堅く推移すると思われる。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

先月に続き、月の後半まで相対的に小型株が大きく劣位となり、月末に向けて急速に戻し、結局ほぼオープンの状態となりました。ただし、実体としては小型株グロースがかなり強い状況にあり、値動きの大きな銘柄が目立つ月となっています。

ポートフォリオは、ややグロースエクスポージャーを拡大させ、シクリカル銘柄の利益確保とともに、一部内需へのシフトを行いました。

半導体、内需グロースのロングを中心にパフォーマンスを確保することが出来ました。一方、個別に突出した寄与はないものの、ハイバリュエーションな小型株ショートがマイナス寄与となりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

2月のポートフォリオは、シクリカルの戻り期待のロングは限定的とし、全体として内需グロースのロングを中心にポジションを考えます。

高値からの調整が一服した好業績銘柄やシクリカルなボトム圏にある銘柄については、来期以降を睨んだ株価上昇が期待出来ます。相変わらず放置銘柄との格差が目立つ相場ですが、局地的な売買の集中が持続すると思われるため、グロースの小型に強気のスタンスで臨みます。

業績モメンタムの変化に留意し、業績拡大可能な割安銘柄の組入れと、競争力など中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。